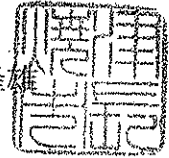




焼 72 - 39 号
平成19年 4月27日

国土交通省道路局長 様

焼津市長 戸本隆雄



道路整備の中期的な計の作成に当たっての意見

1. 本市をはじめとする志太榛原・中東遠地域における今後の“まちづくり”は、開港間近な富士山静岡空港を核とした「臨空都市」を目指し、地域の活力となる産業経済活動の向上は基より、利便性の高い安全で安心した住み良い魅力あるまちづくりを進める上で、広域道路網の整備は必要不可欠な重要施策であります。

以上のことから、次に掲げる整備が望まれます。

- ①. 富士山静岡空港へのアクセス道路として整備が進められている大井川新橋及び志太中央幹線の整備促進。
- ②. 東名焼津～吉田間への新インターチェンジの新設促進。
- ③. 国道150号志太～榛南バイパスの整備促進。
- ④. 第二東海自動車道（新東名高速道路）の整備促進及び東海自動車道（第一東名高速道路）とを結ぶアクセス道路としての県道焼津森線の整備促進。
- ⑤. 都市間を結ぶ幹線道路網（都市計画道路）の整備による円滑な交通ネットワークの確保とともに、想定される東海地震などの災害時における緊急輸送路としての機能強化を図る必要がある。

【都市計画道路小川島田幹線】

2. 少子高齢化が進み、安全な道路空間の確保が叫ばれる中、特に小・中学校周辺部における安全で安心して通行できる通学路などの歩行空間の確保を始めとする施設等の整備は、いまだ十分とは言えず、今後も更に自転車・歩行者の安全な通行の確保を図るための交通安全施設の整備を進める必要があります。

3. 多くの市民からは、日々の生活に欠くことの出来ない生活道路の整備に対する要望が多く寄せられており、交通量や周辺の土地利用状況等の各種条件を踏まえた中で優先順位をつけ、選択と集中により、計画的に整備を進めておりますが、幹線道路に比べ整備が遅れている身近な生活道路の整備を進めて行く上で、新たな財政的支援が必要であります。

4. 今後、多くの道路施設についても耐用年数を向かえることから、安全性や利用者満足度を確保しながら、費用対効果や維持管理面に配慮した施設整備を進めることや、既存資産の有効活用と必要となる維持管理費の確保など大きな課題となることから、新規の投資と維持・更新費とのバランスを踏まえ着実な道路行政を進めて行くことが必要になるものと考えており、そのための維持・更新に係る新たな財政的支援が必要であります。

以上のことから、今後のまちづくりを進める上で、社会基盤としての道路の果たす役割は大きいことから、道路特定財源の確保は必要と考えております。